

148 No. 10: 中国・浙江省で観光PR—本県の知名度アップ実感 (令和元年12月24日)

携程旅行網と銀聯国際がまとめた2019年中国人出境旅行消費報告によると、今年1～11月に中国人から最も人気を集めた観光地はタイで、2位は日本、3位はベトナムだった。そして、銀聯カードを使用した海外での消費は日本が最も多かった。

観光庁がまとめた訪日外国人消費動向調査によると、7～9月期の訪日中国人旅行者の消費額は前年同期比22.3%増の5,051億円で外国人全体の4割以上を占めており、滞在中の1人当たり消費額は約21万円で全体平均より約3割も多い。



【セールスコールの様子】

こうした中、本県の友好都市である浙江省における旅行会社向け観光PR事業として、11月26日に旅行会社訪問（セールスコール）、27日に観光商談会を開いた。鬼怒川グランドホテル夢の季（日光市）、日光金谷ホテル（日光市）、松川屋那須高原ホテル（那須町）、ホテル森の風那須・ホテル四季の館那須（那須町）、あしかがフラワーパーク（足利市）、若竹の杜若山農場（宇都宮市）が自社のPRにとどまらず、それぞれの地域の魅力を熱心に説明し、参加した旅行会社から高い評価を得た。

今回の観光PR事業は昨年12月の知事のトップセールスに引き続いての取組みであり、少しずつではあるが栃木県の知名度が向上していると実感できた。

ところで、最近、中国ではトルコの人気が急上昇している。トルコ統計局によると、2018年の同国への中国人旅行者数は前年比70%増の40万人に達し、2019年も引き続き増加している。有名なカッパドキアの熱気球遊覧では中国人観光客が全体の7割を超える日もあるという。

背景には中国人旅行者に対する入国ビザの免除、トルコ通貨の下落といった理由がある。「ロマンチックトルコ」というプロモーションが中国の若者の興味を引き付けたことも大きい。また、宿泊予約がスマホでいつでもどこでも手軽にでき、決済もスマホ。付加サービスとして周辺の観光情報がスマホに随時提供されるなど、ネットサービスの充実が中国若者のニーズを満たしたようだ。

トルコの観光地の多くは交通の便が良くない場所にあるが、宿泊施設のオーナーが共同で観光ツアーを開催したり、空港などへの共同配車サービスを行ったりして工夫しており、個人客にとって安心、便利に滞在できると評価されている。

本県においてもトルコの取組みを参考に、中高年層を中心とする団体客から若者を中心とした個人客へのシフトを進めても良いのかもしれない。

毛塚 隆弘(けづか たかひろ)

栃木県香港事務所所長。

1993年県庁入庁。産業政策課、国際課などを経て日本貿易振興機構（ジェトロ）に出向。2017年4月から現職。栃木市出身。